

# 中部ブロック 新広域道路交通ビジョン（案）概要

---

## ものづくり中部の革新を支える 新たなみち

### 序章

#### はじめに

1. 新広域道路交通ビジョンの位置付け
2. 新広域道路交通ビジョンの概要
3. 広域道路ネットワークの思想

### 第1章

#### 中部ブロックの現状および 社会経済の動き

1. 自然特性・地勢的位置づけ
2. 人口動向
3. 新型コロナウイルス感染症による影響
4. 交通ネットワーク
5. 産業特性
6. 逼迫する巨大災害

### 第2章

#### 中部の将来像(目指すべき姿)

1. 多様な個性に彩られたブロック都市圏の『地方創生』
2. 日本経済を牽引する『物流首都』・中部
3. 国際大交流時代の核をなす日本の『セントラルハブ』
4. 巨大災害にも強くしなやかで『とまらない経済活動』の実現
5. 次世代技術の率先的導入による『高度モビリティ社会』の実現

### 第3章

#### 中部の将来像実現に向けた 道路交通課題・取組

1. ブロック都市圏等の交流・連携の促進
2. 国際拠点を中心とした円滑な「物流の基軸」の形成
3. 国内外の観光客を魅了する道路交通環境の形成
4. 災害時の人流・物流交通の確保
5. 地域の核となる拠点・交通結節点機能の強化
6. ICTの導入による先進的な取り組みの推進

### 第4章

#### 広域的な道路交通の基本方針

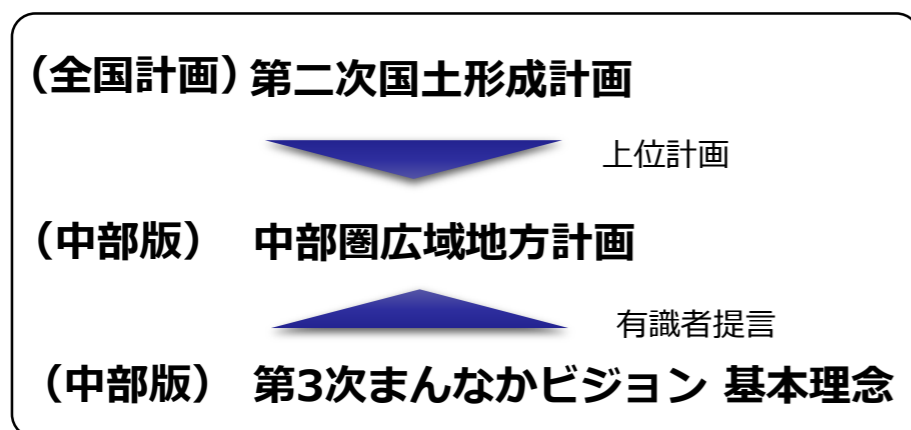
1. 広域道路ネットワークの基本方針
2. 交通・防災拠点の基本方針
3. ICT交通マネジメントの基本方針

## 新たな広域道路交通ビジョンの位置付け

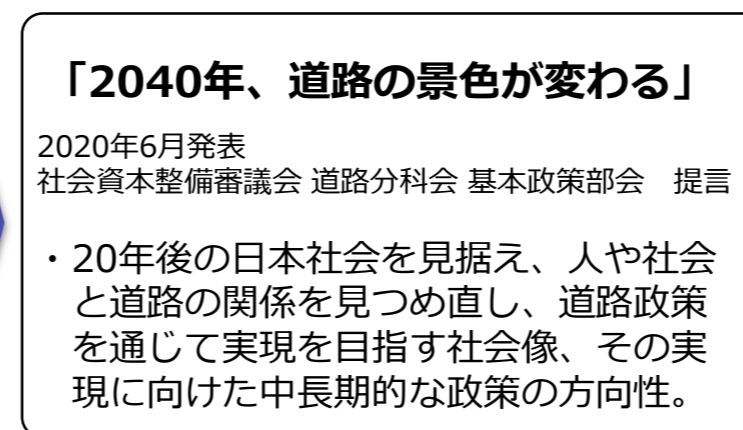
- 本ビジョンの検討に際しては、中部圏広域地方計画や第3次まんなかビジョン基本理念など既存の将来ビジョンにおける当時の現状認識や将来像を確認し課題抽出の参考とするとともに、我が国の道路政策に係るビジョン「2040年、道路の景色が変わる」の中長期的な政策の方向性を踏まえ、現在の中中部圏を取り巻く社会経済の情勢を考慮の上、道路管理者、地域、民間、教育機関など多様な主体との強固な連携のもと、新たに掲げる中部圏の将来像の実現を目指し、今後の中部圏の広域的な道路交通施策の方向性をとりまとめた。

### ■新広域道路交通ビジョン（中部ブロック版）と既存の将来ビジョンとの関係

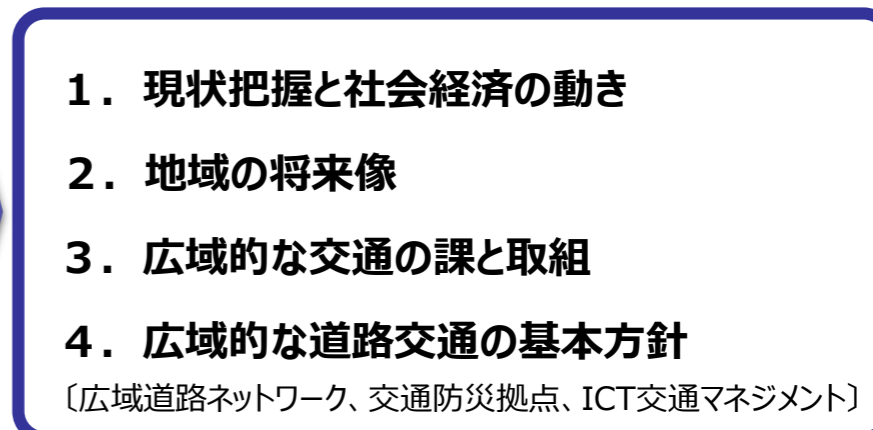
#### 中部圏における既存の将来ビジョン



#### 我が国の道路政策に係るビジョン



#### 新広域道路交通ビジョン(中部ブロック版)



## 新たな広域道路交通ビジョンの概要

- 平常時・災害時を問わない安定的な輸送を確保するため、「重要物流道路制度」が創設。
- この重要物流道路の指定にあたっては、新たな広域道路ネットワーク等を幅広く検討した上で、効果的に指定する必要。
- これを契機とした「新たな広域道路交通計画」を各地域において中長期的な観点から策定に向け、これに先立ち、地域の将来像を踏まえた広域的な道路交通の今後の方向性を定める「新たな広域道路交通ビジョン」を策定。

## 広域道路ネットワークの思想

- これまでの広域道路整備基本計画と本ビジョンの広域道路ネットワークの考えには、共通の概念と新たに登場した概念が存在。
- 産業経済、生活、観光等のつながりに起因した地域間の交流・連携の拡充の必要性は本ビジョンの検討においても重要な観点。
- 社会情勢の変化など我々を取り巻く状況は大きく変貌を遂げ、かつては明示的でなかった国土強靱化等についても重要な検討事項。
- 予測可能な変化を踏まえ、広域道路に期待される役割を再考し、将来像を明確に見定めた上で、実現に向けて広域道路の施策を展開。

## 《自然特性・地勢的位置づけ》

- 標高3,000m超の山岳から流れる急流河川が沖積平野等を形成
- 雄大な風景・景観、多様な生態系、自然の恵みを楽しむ
- 複数の国土軸の結節点に位置し、我が国の物流・人流の要衝

## 《人口動向》

- 将来、2045年には中部圏は、全国の減少率と同程度まで総人口は減少

## 《新型コロナの影響》

- 我々の生活や経済活動に必要不可欠な人やモノの移動を道路ネットワークが支える
- 広域道路交通のニューノーマルな機能、役割を見据える必要

## 《交通ネットワーク》

- 3大都市圏を結ぶ高速交通ネットワークが形成
- 陸・海・空の交通インフラ整備が、基幹産業の競争力強化に貢献
- リニア開業により三大都市圏の結びつきが強固に

## 《産業特性》

### <物流>

- 国内最大のものづくり産業の中核・中部
- 産業特性に応じた多様なサプライチェーンに基づく物流が展開する我が国の『物流首都』
- 我が国随一の貿易黒字を稼ぐゲートウェイ・中部
- 伊勢湾周辺の物流の基軸には高速ボトルネックが存在
- アジアダイナミズム等の世界の経済成長を取り込む、ゲートウェイ機能とアクセスの重要性
- 民間・行政・研究機関が率先して、公道での先進的な自動運転実証実験を全国に先駆けて実施

### <人流>

- 広域的な地域間旅客流動を支える交流の要
- 世界的にも著名な観光資源を有するが、需要の取り込みは首都圏や近畿圏などの後塵を拝す
- インバウンド客、国内外の観光ニーズの多様化に対応した観光地域づくりの重要性の高まり
- 昇龍道プロジェクト等による広域観光交流圏の形成
- 対流・交流で稼ぐ交流の『セントラル・ハブ』として中部圏がその存在感を高める必要

## 《逼迫する巨大災害》

- 巨大災害による人的・物的被害や経済被害は、物流・交流等を通じて国内外へも広域に波及
- 適切な防災・減災対策のもと、経済停滞を抑止し、早期の復旧・復興を可能とする強靱な国土づくりが急務
- 速やかな代替補完を実現するため、太平洋と日本海の2面活用を可能とするバックアップ体制の拡充が必要

## 第2章 中部の将来像（目指すべき姿）

- 平常時・災害時を通じて、滞りのない対流を形成するため、中部の広域道路や交通が果たすべき役割として、中部の将来像を次のように定めた。

### 中部の広域道路交通が果たすべき役割 ～平常時・災害時を通じて、滞りのない対流の形成～

#### 1. 多様な個性に彩られたブロック都市圏の『地方創生』

ゆとりある多極分散型の地域構造を成す中部において、人口減少や地方部の過疎化に伴う交流縮退を抑止するため、ブロック都市圏としてのまとまりを強化し、重層的なネットワーク構造のもと都市や拠点、および地形条件から移動困難となる地域の連絡性を高め、多様な個性に彩られたブロック都市圏の人や地域の交流・連携を促進し、『地方創生』を実現する。

#### 2. 日本経済を牽引する『物流首都』・中部

世界のものづくり先導地域として、また我が国の『物流首都』として、アジア・ユーラシアダイナミズムなど世界の成長活力を的確に取り込みながら、より一層の生産性や産業集積地における物流効率性を高め、新たな付加価値を創造し、成長エンジンとなる次世代産業を育むことで、引き続き日本経済を牽引していく環境を整える。

#### 3. 国際大交流時代の核をなす日本の『セントラルハブ』

各都市に息づく歴史文化や自然環境、地域資源等を背景とした豊かな個性を有する拠点間をつなぐ広域観光交流圏を形成し、国内外の増大する観光需要を取り込みながら地域経済の活性化を図るとともに、拠点都市の利便性や魅力の向上につとめ中部国際空港やリニア駅などの拠点を核とした世界に選ばれる都市として国際大交流時代における交流・連携の『セントラルハブ』となる。

#### 4. 巨大災害にも強くしなやかで『とまらない経済活動』を実現

広大な低位地帯や急峻な山岳地域、大海に面した沿岸部など多様な地形環境を背景に、激甚頻発化する自然災害や切迫する巨大地震等に対して、ハードとソフトが一体となった防災・減災対策がなされ、平常時・災害時の継ぎ目ない移行を可能とする多重性・代替性を担保し、『とまらない経済活動』を実現する強靱な国土形成に寄与する。

#### 5. 次世代技術の率先的導入による『高度モビリティ社会』

世界を先導するスーパー・メガリージョンのセンターとして、また、陸海空の交通の要衝として、拠点間の連携強化はもとより、AI・ICT・ビッグデータ等を活用した自動運転技術などイノベティブな技術の率先的導入により、新たな付加価値を創出する『高度モビリティ社会』の実現を図り、国内外から引き寄せた人・モノ・サービスを活用した経済成長の活力を広域に波及させる。

# 第3章 中部の将来像実現に向けた道路交通課題・取り組み

## (1) ブロック都市圏等の交流・連携の促進

### ○中核中核都市等を核としたブロック都市圏の形成

- ・今後の人口減少に伴い活性化の根幹である交流の停滞が懸念。
- ・経済圏や生活圏としての関係性等を考慮して広域交通の拠点を担う都市やブロック都市圏同士を効率的かつ効果的に連絡。
- ・国土幹線軸やこれと一体となって主要幹線道路網として機能するネットワークを整備。広域的な観点で都市間、都市圏間の交流・連携を促進。

### ○ブロック都市圏等の競争力・魅力の向上

- ・中部の中核を成す名古屋は世界各国の都市の中では低迷。多極分散構造のブロック都市圏やその中心都市が世界から選ばれる都市、まちや都市の魅力向上が必要。
- ・重層的な広域ネットワーク形成、都市圏内の主要拠点との連絡性の強化、中心部への通過交通を迂回させる環状機能強化により、事故のない安全で快適な滞在ができ、賑わいに溢れた、行きたくなる／居たくなる、低炭素化された人中心の道路空間を創出。

## (2) 国際拠点を中心とした円滑な「物流の基軸」の形成

### ○物流首都たる中部の新たな広域物流軸の形成

- ・広域物流軸に残るミッシングリンク。旺盛な物流需要や大都市圏間の物流集中により混雑・渋滞が顕在化。
- ・広域道路等との有機的な連絡や産業集積地との連携強化により、ネットワーク全体の物流ポテンシャル向上に資する広域的な物流軸を形成。

### ○港や空港等の機能強化と陸・海・空を結ぶシームレスな交通ネットワーク強化

- ・国際物流競争力向上のため、就航船舶の大型化(コンテナ船、バルク船等)に伴う岸壁の大水深化や世界で取扱が急増する40ft背高コンテナへ対応。
- ・アジア・ユーラシアダイナミズム等の世界の旺盛な経済成長活力を取り込むため、太平洋・日本海の2面活用を見据えた中部圏と北陸圏の連携強化に資するネットワーク強化。等

## (3) 国内外の観光客を魅了する道路交通環境の形成

### ○新たな観光交流軸を支援する道路交通ネットワークの形成

- ・多様な地域資源が存在するが、インバウンドの来訪状況は首都圏や近畿圏の後塵を拝する。
- ・広域観光周遊ルート「昇龍道」、日本風景街道など、地域資源を活かした来訪者のホスピタリティを強化。
- ・陸・海・空の交通拠点(空港、港湾、駅等)との連絡性の強化や広域観光を支えるネットワークを形成するとともに、利用交通機関の利便性の向上などを図る必要。

### ○観光周遊を支えるきめ細やかな道路サービスの提供

- ・点在する地域資源や交流・交通の拠点間をつなぐマルチモーダルな周遊ルート形成に向けて、ユニバーサルデザイン・バリアフリー化など配慮し、ハード・ソフトの両面から受入環境整備を促進。
- ・地方創生・観光を加速する拠点として、「道の駅」は新たなステージに。多様な主体との連携を広げ、活力のある地域づくりに貢献する新たな役割が期待。

## (4) 災害時の人流・物流の確保

### ○災害に強い防災道路ネットワークの構築

- ・交通寸断の影響は、製造業や流通業等を中心に、社会経済活動の停滞の影響が広域化。
- ・我が国経済の物流軸の根幹を成す交通ネットワークの代替性確保、広域的な企業間BCPを支援するハード・ソフト面からのインフラ整備による経済活動の強靱性向上を図る。

### ○迅速な救急・救命活動、道路啓開の支援

- ・大規模災害による同時被災に備え、太平洋と日本海の2面活用を想定した人流・物流の広域的な代替補完関係(バックアップ体制)の強化が必要。
- ・迅速かつ広域的な救命・救援・復旧活動を支援するハード・ソフト面からのインフラ整備(くしの歯ネットワーク)を拡充。
- ・災害時の道路施設等の情報を集約し、誰しもに分かりやすく発信する体制を構築。
- ・道路施設の機動的かつ弾力的な運用を実現し人命損失を最小化。

## (5) 地域の核となる拠点・交通結節機能の強化

### ○リニア駅など広域的な交通結節点との連携強化

- ・リニア駅を核とした地域づくりの推進。交通軸の強化により、世界から人・モノ・サービスを引き寄せる拠点形成。
- ・スーパー・メガリージョンのセンターとしてリニアの効果を広域的に波及させる取組を推進。
- ・東海道新幹線の利便性向上(列車頻度)を見据え、既存新幹線駅を拠点とした交流の活性化の取組。

### ○モーダルコネクトの推進による新たな付加価値の創出

- ・国際競争力を保持しつつ持続可能な物流・人流の実現に向け、インフラ拡充とともに環境負荷の低い手段への転換や輸送障害発生時にも弾力的に代替手段を確保しうる交通モード間の結節強化が重要。
- ・民間と連携した新たな交通結節点として集約型の公共交通ターミナル整備(バスタプロジェクト)の推進。
- ・空港・港湾・鉄道等と道路ネットワークとのモーダルコネクト(交通モード間連携)の強化や交通拠点への直結を促す施策により、安全・安心で快適な利用環境を実現し、今までに無い使われ方や新しい付加価値の創造に寄与。

### ○災害時の物資輸送や避難等の主要な防災拠点の機能強化

- ・一時避難場所や復旧支援活動の拠点として、地域防災計画等の広域物資拠点等に加えて、「道の駅」や高速道路のサービスエリア(SA)・パーキングエリア(PA)等における防災機能の強化が必要。
- ・広域的な防災拠点機能を有する「防災道の駅」の検討を推進。

## (6) ICTの導入による先進的な取組の推進

### ○自動車新時代に対応した取組の支援

- ・高度な自動運転の実現に向けた取組の推進。ETC2.0等のビッグデータを活用した道路を賢く使う施策の実現。

### ○スマートシティ・新たなモビリティサービスの実装に向けた取組の推進

- ・都市や地域の機能やサービスの効率化、高度化を図り、新たな価値を創出するスマートシティ等の実現。
- ・出発地から目的地までの移動ニーズに最適な移動手段をシームレスに提供する日本版MaaSの展開を推進。
- ・公共交通データのオープン化による横断的利用を促進。MaaS関連データ連携による利便性、ダイバーシティ確保。

### ○インフラメンテナンスへの革新的技術の社会実装の推進

- ・ロボット、AI、IoT、ビッグデータ等を活用し、持続的・効率的なインフラメンテナンスの実行による予防保全を実現。

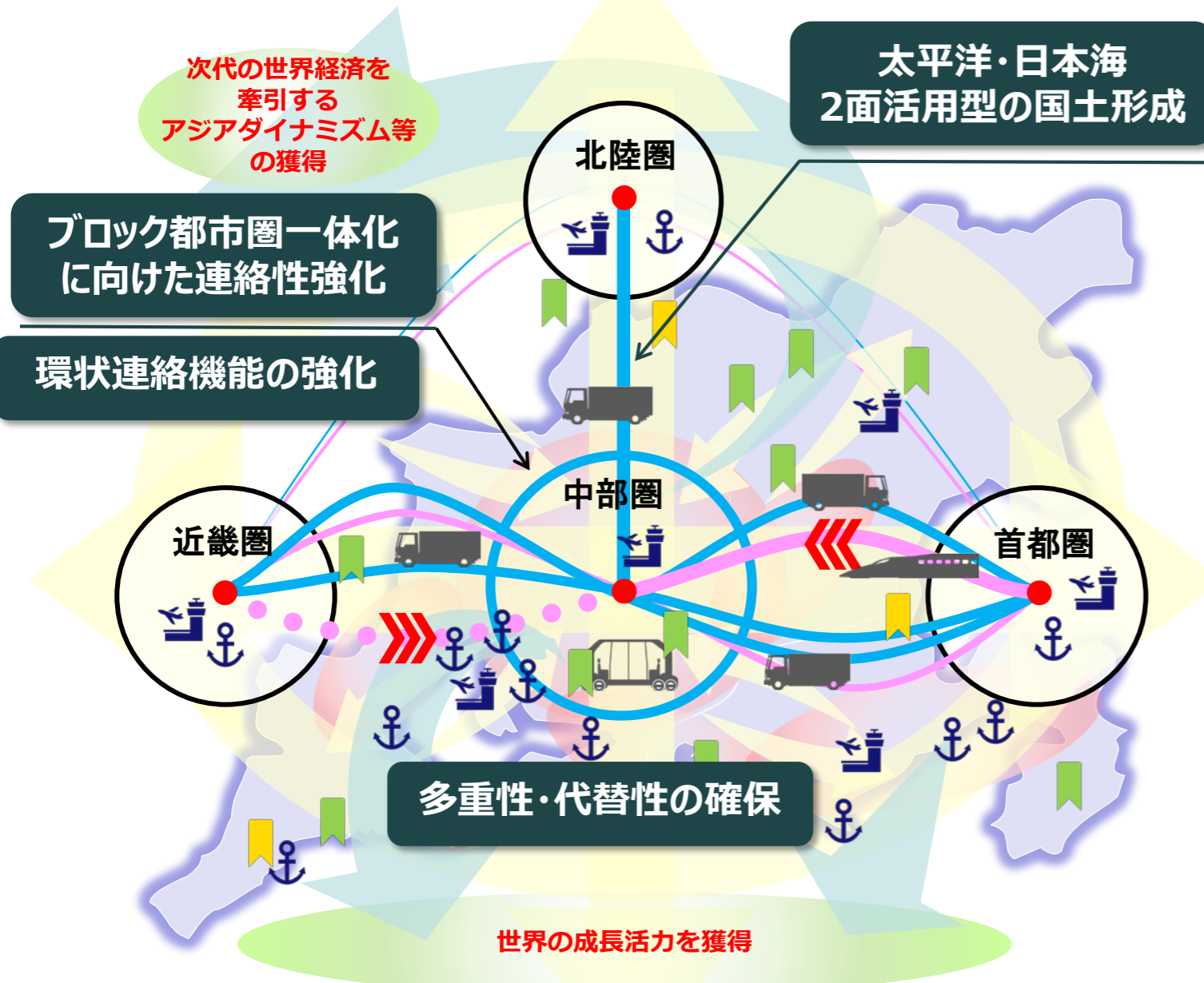
# 第4章 広域的な道路交通の基本方針

## ■ 広域道路ネットワークの基本方針（ビジョン）

物流・人流の要衝

スーパー・メガリージョンのセントラルハブ（国土軸の結節点）を担う  
中部ブロックの広域道路ネットワーク整備のポイント

中部圏内の都市圏形成や、空港・港湾及び生産拠点等との連絡性を強化するほか、通過交通の迂回を図る環状連絡機能を強化するなど重層的なNWの形成を目指す。また、我が国の「セントラルハブ」として、首都圏・近畿圏のみならず、太平洋・日本海2面活用型の国土活用を可能とするべく、NWの多重性と代替性を確保する。



■ 世界遺産
 ■ 昇龍道百選(四季の体感、自然・景勝地)
 ● 製造品出荷額等の大きい産業集積地

## ■ 広域道路ネットワークの基本方針（ビジョン）

### ① 拠点間連絡の観点

- 地方創生の実現に向けて、地域活性化の根幹となる地域や人の交流・連携を促進させるため、**ブロック都市圏**やその**中心都市間の連絡性**や地形条件から移動困難となる地域の連絡性を強化。
- 安全で快適に移動や滞在ができる賑わいに溢れた人中心の道路空間を創出し、世界から選ばれる都市、国内外からの交流人口が集う魅力ある都市・まちの実現に向けて、**ブロック都市圏間**等の連絡性を強化するほか、**通過交通の迂回を図る環状連絡機能**を強化するなど重層的なネットワークを形成。
- 物流および人流の要衝として中部圏が経済成長を牽引するため、広域的な都市圏の輸送・移動の効率性を高め、**リニア時代を見据えたイノベーションの核**となる適地(R&D機能、拠点工場等)とのアクセス向上を図る。
- ものづくり産業の国際競争に打ち勝つため、**陸・海・空のゲートウェイ**や**物流拠点**および**生産拠点**等への**シームレスな国際物流**の環境を整え、「物流首都」である中部として、全国に先駆けて物流強化に関わる先進的な取組等を推進。
- 我が国の交流の「セントラルハブ」として、インバウンドの受入拠点となる国際ゲートウェイ(国際空港、クルーズ船立寄港)や高速鉄道駅等から地域資源や拠点を結び、広域観光交流圏や周遊ルートを支える2次交通やネットワークを拡充。

### ② 災害時の代替機能強化の観点

- 社会経済活動の停滞を回避し、企業活動の継続性(BCPの実効性)の向上と迅速な復旧・復興を可能とする日本経済の根幹をなす大動脈の代替性を確保。
- 激甚・頻発化する自然災害に対して、地域の孤立や医療施設等の防災拠点へのアクセス路の途絶に至らぬよう、住民の安心安全につながるネットワークの代替性を確保。

### ①・② 共通として

- アジアダイナミズム等の世界の成長活力を取り込むため、**太平洋・日本海2面活用型の国土活用**を可能とするべく、ネットワークの多重性と代替性を確保し、一極集中による国土の脆弱性を低減させ、効率的かつ信頼の高い輸送を確保する国際大交流時代に相応しいインフラ整備を促進。

ビジョンを踏まえて計画策定

広域道路ネットワーク計画（概ね20～30年間を対象）

## 交通・防災拠点

### ①地域の主要な交通拠点に関する道路と各交通機関の連携強化の方向性

- 広域的な連携に基づく都市圏・地方圏を形成するため、重層的な道路ネットワークを拡充するだけでなく、鉄道、高速バス等の広域的な交通を担う交通拠点の結節強化を推進。
- リニアがもたらす効果を中部圏に広域的に波及させ、交流の「セントラルハブ」機能を発揮するため、人・モノ・サービスのゲートウェイ、あるいは周辺地域へのアクセス拠点として、交通結節機能を重視したリニア駅および駅周辺整備を推進。
- リニア中央新幹線開業後の東海道新幹線における「ひかり・こだま」の運行頻度の増加、利便性向上を見据え、地域の核となる交通結節点として既存新幹線駅の機能強化を推進。
- 鉄道駅とも直結する集約型の公共交通ターミナルを整備するバスタプロジェクトを推進するほか、バス間の乗り継ぎ拠点の設置(SA/PAや「道の駅」等)や拠点までのアクセス環境整備などユーザー目線のモーダルコネクタ強化を推進。

### ②災害時の物資輸送や避難等の主要な防災拠点の機能強化等の方向性等

- 広域防災の実行・応援体制を強力なものとするため、広域アクセスを可能とする陸・海・空の交通ネットワーク強化や防災拠点へのアクセス強化および防災拠点(広域・地域(「道の駅」、病院等))の機能強化を通じた災害対応力の向上。
- 各防災拠点における災害時の外国人観光客に向けた受け入れ環境や交通情報提供方法など、グローバル化に適応した防災機能の強化。

新広域道路交通計画

交通・防災拠点計画

## ICT交通マネジメント

### ①ICT等を活用した道路の情報収集や活用の方向性 及び 主要都市部等における面的なマネジメントの方向性

- 新型コロナウイルス感染症の経験を踏まえたニューノーマルを見据えつつ、Society5.0の実現に向けて、国土交通分野においてもAI、ビッグデータ、IoT等の革新的技術を活用し、「高度モビリティ社会」の実現に向けてイノベーションの社会実装を推進。
- 生活面や観光面等の移動利便性向上や、都市・地方が抱える課題解決に向けて、複数の公共交通機関や多様な移動サービスを組み合わせ、最適なルート検索・予約・決済等を一括で提供する新たなモビリティサービス(MaaS)の展開を推進。
- 深刻なドライバー不足、省力化や環境負荷低減に向け、新東名における後続無人隊列走行の実現をはじめ、各種の自動運転技術の公道における社会実装の実現に向けて、車両の大型化や技術革新に対応した道路交通環境の整備を進め、関係機関の協力体制を構築。

### ②他の交通とのデータ連携などサービス向上の方向性

- 安全で確実な高度自動運転を実現するため、重要な役割を有するダイナミックマップの開発促進に向けて、自動車専用道路のみならず一般道路を含めた道路基盤地図の整備に向けて、産学官が連携した取組を推進。
- 適切なデータオープン化によるMaaSの実現を念頭に、地域交通に関するビッグデータ等を収集する仕組みを構築し、ストレスフリーな交通モードが選択できる環境を整え、産学官が連携して地域交通課題を検討する体制を構築。

新広域道路交通計画

ICT交通マネジメント計画